

●平成 31 年度一般前期試験（英語）講評

ねらい

前期試験では、大学で求められる基本的な学力を試すことを念頭に、センター試験とは異なる視点で総合的な英語力を問う。具体的には、長文の内容を素早く読み取り、その要点を日本語・英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙について文脈中で説明されている箇所を的確に理解する力(或いは、語彙の説明がなされている箇所を的確に理解する力)、自分の考えを英語で論理的に表現する力を試すことをねらいとしている。

全体講評 I, II

「ねらい」にある「要点を日本語・英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙について文脈中で説明されている箇所を的確に理解する力」を試す問題である。記述式問題の解答においては、解答に書かれている日本語の意味がよく理解できないもの（日本語の主語と述語の繋がりが不明瞭な解答や、日本語で解答をしてはいるが、問題文の英文を直訳しているような解答）が散見された。日本語で解答を行う時は、答案に書いた自分の日本語を再度読み直して、主語と述語のつながりがおかしくないか、修飾語の位置がおかしくないか等の確認をしっかりと行うことが必要だ。

英文の問いに関しては、**解答する前に日本語の指示文をしっかりと読むことを心掛けるべきである**。また、**解答する際には、参考にすべき箇所が本文中にあるが、それを探す手がかりとなるキーワードは英文の問いにある**。**英文の問いをしっかりと読んで解答を行う練習が足りていない受験生が多くみられた**。英文の問いに対してどのように対処すべきか日常的に練習することが必要である。

各設問について

I

問 1

日本語訳の問題である。ほとんどの受験生は引用箇所までは正しく訳せていたが、後半部分は半数以上の受験生は誤訳であった。受験生の中には、'visa applications'(ビザ申請)を'ビザ・アプリ'と誤訳していた。普通の英文とは語順が違うので誤答したのかもしれないが、内容的には簡単な問題である。

問 2、問 3、問 4

本文中の単語の意味の理解を問う問題である。選定された単語の意味を英語で説明してある 3 つ、あるいは、4 つの選択肢(a, b, c, d)から正しい説明文を選択する問題である。この 3

つの問題はほとんどの受験生が解答できていなかった。普段から分からない単語が英文中にある時に文脈から意味を推察する練習を行っていれば簡単な問題である。意味が分からない英単語をすぐに辞書等で日本語訳を調べる学習法では、英語の読解力の育成はできない。

問5

本文中の内容に関する英文による応答問題である。日本語の指示文に“完全な文で”と二重下線が引かれているにもかかわらず、単語レベルで解答している受験生が半数近くいた。問題文の “What kind of Chinese people…”をしっかりと読めば、主語は’They’であることは明白である。指示文をしっかりと読んで解答するように心がける必要がある。

問6

本文中の内容に関する英文による応答問題である。問5同様に日本語の指示文をしっかりと読まず単語レベルで解答している受験生が半数近くいた。英語の質問を読めば回答の主語が’They’であることは明らかである。

問7

中国人が日本へ来る理由を「内容に即して」かつ「完全な英文で」答えることが求められる問題である。まず、段落⑩の”they are not poor, and do not come here only for work”から、「お金を稼ぐため」とか、「仕事をするため」という内容の答えでは不正解となる。また、段落⑤で比較されているのは、中国で高騰した家賃と日本の家賃ではなく、中国で高騰した家賃と東京郊外の川口市などの家賃である。ほとんどの答案でこの点の理解が不足していた。答案で目立ったのは、文の形式を整えていない語句のみの解答 (S+V の形式を整えていることが必要である) や、英文における数の一致に関する文法上の間違いである。英語で答案を作成するときは、本文中の英文を参考にするのが鉄則である。

問8

2つの利点は段落⑪で述べられている。段落⑪の英文を活用した答案が多かったのは良いが、意外な間違いも目立った。例えば、1つ目の These ‘new Chinatowns’の引用符を最初の‘を省いて表記した These new Chinatowns’が多かった。ちなみに、これは日本国内でのいわゆる地域興しの助けになっているという内容である。2つ目は、日本人と中国人との人の交流が2国間の関係発展の助けになるという内容である。2つの利点の違いをしっかりと読み取れていない答案が目立った。また、exchanges が名詞で、will help に対する主語であるという点が理解できていない答案も多くあった。そもそも、英文の文頭は大文字で書き始めるので、Exchanges とすべきであり、exchanges で始まる文は「完全な英文で」とは言えない。

II

問1

和訳の問題である。下線部だけを読んで答えようとする答案も見受けられる。下線部の内容を捉えるためには、文脈に沿ってその部分を読むべきである。所々の部分をつまみ食いするような読み方では正解に近づけない。また、英語の構造が把握できておらず、単語の機能（品詞等）を無視して修飾関係に関係なく勝手に組み合わせているものもある。

(ア)

この下線部に先立って②のパラグラフから絵文字が日本発祥であり、日本特有のものも存在することがわかっている。それを前提にこの文の意味を考える必要がある。ほぼ60%の正答率であろう。不正解の答案では、“carefully designed”の部分が読み取れていない答案が多かった。“why are there so many Japanese symbols and icons that are unknown to nearly everyone outside Japan?”の are there の存在を忘れて、why から are unknown のところまで飛んでしまい、「なぜ知られていないのか」と訳しているものも多数見受けられた。また、nearly を near または neighboring のように解釈し、「日本の近隣諸国」のように捉えているものもかなりの数見受けられた。

(イ)

60%の正答率である。下線部の箇所に綴りの点で少し紛らわしいが、Theman という人名が出てくる。その人物はこの下線部に先立つ⑩のパラグラフに Petra Theman, of Finland’s Ministry of Foreign Affairs という説明があり、その次の文はその人物を受けて She で始まっている。このことから、“Theman”は“The man”ではないことが分かるはずである。不正解の多くは「その男は言った」と解釈していた。また、see yourself represented の部分は少し難しいが、捉え方が曖昧なものが多かった。

問2

比較的正答率が高く、満点解答も多かった。誤答の例としては、フィンランドが作った絵文字（羊毛の靴下やサウナ）の説明を長々としているものがあつたが、これらの説明はあくまで具体例である。第9段第1文、第13段第1文でフィンランドの絵文字に対する取り組みが簡潔に述べられているので、これらの内容をまとめること。

問3

前後の内容から単語の意味を類推する問題。正答率は6、7割ほどであった第12段はサウナの絵文字に関する内容だが、同段第4文に“This change was made...”と書かれている。ここから絵文字のデザインが変わったことがわかる。よって正解はAのslightly adjusted。adjustは「~を調整する」の意。ほかの選択肢は、それぞれB「完全に却下される」、C「即座に取り替えられる」の意。

問4

日本の絵文字の主な問題点を答える問題。正答率は6割ほどであった。第15段第3文に The fact that many of Japan's emoji aren't recognizable outside of Japan 「日本の絵文字は日本の外ではわかりにくいという事実」という記述があり、ナルトや富士山がその例として挙げられている。よって正解はA。

問5

絵文字を誰が選んでいるのかを答える問題。正答率は7、8割ほどであった。Aの「日本政府」については絵文字との関連についての具体的な記述はない。Bの Emojipedia は第6段第1文にあるように、オンラインの絵文字のデータベースであり、絵文字の採用・不採用に関わっているという記述はない。よって正解はC。Unicode Consortium については、第3段第2文に、「絵文字をチェックし、管理している団体」だと書かれている。

問6

問題文は「本文によると、絵文字を認可する人々はどのようなガイドライン（指針）に従っているか」の意であるが、そもそも問いの意味を読み取れていない受験生が多かったようで、正答率は非常に低かった。正解に該当する記述内容が第6段～第12段に散らばっているため、本文全体の内容を読み取れていないと、正解するのは難しい。また、完全な文で答えることを求められているので、内容が合っても主語と動詞を伴っていない答えになっているものは減点した。

問7

問題文は「本文によると、どのような人々が絵文字を作ってほしいと思っているか」の意であるが、この問いに関しても意味を読み取れていない解答が多かった。最も端的に問いの答えになっている記述は、第9段第1文の内容である。また、フィンランド政府の取り組みを考えると、government 「政府」なども正解になる。この問いも完全な文で答える問題なので、Governments can do [ask for emoji]. などと答えなければならないが、文ではなく語句で答えている受験生が多かった。

問8

絵文字がなかなか増えない理由を2つ答える問題である。答えとなる情報は主に段落④⑤⑬⑰で述べられている。全般的に良くできていた。この問題でも、英語で答案を作成するときに本文中の英文を参考にすることが必要となる。

総評

大学入学後に必要となる英文構成法に基づいて、論拠・理由を示しながら自分の考えを論理的に英語で表現できるかを試した。問題I, IIの英文内容も参考にして書かなくてはならないため総点の半分を占めている。エッセイを捨てているように思える答案があるが勿体ない話である。

昨年度に続き今年度も、語数を200語以上とした。しかし、例年出題している形式の問題であるので、対策はし易いはずである。昨年と同じように、(1)導入 (introduction)、3つの段落から成る本論 (body)、と結論 (conclusion) から成る短いエッセイを書くこと、(2)自分自身の経験を含めたり、問題I, IIの英文内容も参考にして書くこと、を要求した問題となっている。多くの受験生がエッセイを書くための英語の指示文(Instruction for Essay Writing)を読んでもおらず、主文が1～2段落から成るものが散見された。また、このInstructionを読めば、結論部分は新たに論を展開せず、本論のまとめの部分であることが読めるはずである。指示文から何を求められているのかという情報を読み取ることが重要であることが分かるであろう。常に日本語・英語の指示文をしっかりと読み、問題を解く習慣をつけることが肝要である。

対策法としては、(1)日頃から日本語や英語の文章を読むこと、(2)読んだ内容に対して(批判的に)考えること、(3)読んで感じたこと・考えたことを書くこと、を習慣化することがある。これによって読解力や分析力が深まり、入試対策のみならず、深みのある学力や教養を養うことが期待される。

高校の英作文の教科書は非常に良くできているので、英文を書く際の参考にして、英語の文章構成を理解し、それに則って何度も小論文を書く練習をするとよい。また、以下の「答案作成についての講評」で指摘されている点にも十分に留意して小論文を書く練習をすることを勧める。

答案作成についての講評 1

Comments about the Entrance exam essay question

As always, in addition to using good English, the key to essay writing is communication and clarity. In terms of communication, we were really looking for students to communicate their ideas with us; the readers. In the essay instructions, three paragraphs are asked for, so one important point when marking the tests, was to check that three separate ideas were explained. One reason a test taker may not have scored highly was not explaining three different points.

In terms of clarity, most essays I read had good structure – an introduction, paragraph sections, and a conclusion, which made them easy to read. Additionally, most of the writers used accurate English, with few obvious problems in basic English sentence structure or vocabulary selection.

However, to gain a higher grade, test takers would have needed to engage with a wide range of grammatical and lexical items. Few essays used more eye-catching grammatical forms, such as the second conditional – “if I had a foreign friend, I would xxx”.

Also, few essays really tried to use more imaginative vocabulary. Instead of using “first, second third,” as transitions between paragraphs, I would recommend, “To begin with”, “In addition”, “One final idea I want to talk about is” and so on. Few writers attempted to use idiomatic language, or a variety of terms for example “If I have (sic) a foreign friend” could be substituted with a variety of terms “If I were on good terms with” or, “If I often hung out with a foreign person” and so on.

A final issue was a lack of awareness of non-English terms. Items such as “furoshiki”, “dagashi” and many regional foods “yakki-manju” and sights “kinkakuji”, “kiyomizudera” were often just written in Romaji with no attempt to explain them to an English Audience. In some cases, this meant a paragraph would be incomprehensible to a non-Japanese reader and was thus penalized.

答案作成についての講評 2

まず問題の指示をしっかりと読むことが大切です。エッセイでは、日本に暮らす外国籍の友人に対して「日本文化のどのような側面について伝えたいか (“what aspects of Japanese culture you would like to teach”）」説明するように、とあります。エッセイの構成として “three body paragraphs”と書かれていますから、少なくとも3つの文化的側面について言及する必要があります。また「文化的側面」というのは汎用性のある大きなカテゴリーを指しており、個別の事例を3つ挙げても十分とは言えません。例えば、「ラーメン、花見、絵文字」というのは個別の事例であり、文化的側面として議論する場合には「食文化、季節にまつわる行事、コミュニケーションツール」という大きな枠組みの中で論を展開することが期待されます。

またそれぞれの論点について「なぜそれを教えること（彼らが学ぶことに）に意味があるのか」を自分自身の経験や文化的・社会的背景と関連づけながら説明できると、更に説得力のあるエッセイになります。

内容に関して気になったのは「過度の一般化(over generalization)」が多く解答に見られた点です。個人的な1回限りの経験に基づいて「〇〇人はマナーを守らない」や「△△人はいつも親切だ」等という結論に結びつけるのはかなり短絡的な印象を与えます。ひとつの事例を多角的な視点から考えてみるのが、アカデミックなエッセイには求められます。

英文としては、それぞれの文章が文法的に正確であること（例：主語と動詞の一致、時制、語順）に加え、適切な語彙表現（collocation）、文と文のつながり（cohesion）、そして段落構成などをしっかり理解していることが重要なポイントとなります。

Sample essays

最後にサンプル・エッセイを2つ挙げておきます。1つはエッセイ課題の最低限の条件を満

たしたものの、1つはエッセイ課題に対して十分に答えたと言える少し長いものです。

<Sample 1 (Short version)>

Over 2.5 million foreign residents are living in Japan. If I became friends with a foreign resident I would teach them about living in apartments, senior – junior culture, and cooking Japanese food to help them enjoy living here.

Firstly, according to the article I read, some Chinese people living in Tokyo are upsetting their Japanese neighbors. So, I would teach my friends about separating trash properly, not making too much noise, and keeping the area around their apartment tidy. These are important things for getting along with your neighbors.

After this, ‘sempai-kohai’ or ‘senior-junior system’ is important. At work or at school, people who are older have more status and responsibility. I would teach my friend how a younger person should use polite language to talk to a senior person.

Finally, to help my new friends enjoy their time in Japan, I would teach them about a lot of interesting Japanese foods. Everyone knows sushi and ramen, but maybe they need to be taught about taco yakki ‘friend octopus dumplings’ and other less famous dishes.

To sum up, if I made a new friend, I would like to help them avoid trouble in their apartment, to speak well to their seniors, and to enjoy a wide variety of Japanese foods.

(210 words)

<Sample 2 (Longer version)>

Over 2.5 million foreign residents are living in Japan. If I became friends with a foreign resident I would teach them about standard rules for living in apartments, senior – junior culture, and cooking Japanese food to help them enjoy living here.

Firstly, according to the article I read, some foreign people living in Tokyo might be upsetting their Japanese neighbors by spitting on the verandah or not flushing the toilet. So, I would teach my friends about apartment block rules. For example, we all have to separate our trash properly for recycling, burning, and taking away for scrap metal. If this is not done, the trash is not collected and can make the building messy and smelly. Similarly, if you have a loud TV, or play a musical instrument this can easily be heard by, and annoy your neighbors. In each case, observing apartment rules is important for getting along with your neighbors.

After this, ‘sempai-kohai’ or ‘senior-junior system’ is important. At work or at school, people who are older have more status and responsibility. Senior people perhaps get better desks and first choice of snacks at snack time, or at parties. But also, they have to help junior staff to work or study properly. In addition to teaching my friend about the system, I would teach my friend how a younger person should use polite language to talk to a senior person. I think knowing deeply about the seniority system would

really help my friends fit in at work and make a good impression with their new coworkers.

Finally, to help my new friends enjoy their time in Japan, I would teach them about a lot of interesting Japanese foods. I think everyone knows sushi and ramen, and it is easy to find a ramen shop or a sushi shop. However, there a wide range of other things to try in Japan. If they do not know about things such as taco yakki ‘friend octopus dumplings’ and other less famous dishes, then they will be missing out on a lot of enjoyable experiences.

To sum up, if I made a new friend, I would like to help them avoid trouble in their apartment, to speak well to their seniors, and to enjoy a wide variety of Japanese foods. I hope they would appreciate the knowledge I could give them.

(390 words)